

当財団の設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」について次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益を補うとともに、限られた資金を最大限に活用するように創意工夫をしました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独創性のある研究に対して助成を行いました。特に、「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」に継続して注力しました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」を広島大学と連携して実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に絞って助成を行いました。また、市民活動支援は、広島・山口両県における青少年健全育成のための地域に密着した活動に助成しました。更に、小学生に感動を与えるプロジェクト「感動塾・みちくさ」は、(財)広島市ひと・まちネットワーク等と共同で開催しました。講演会では、養老 孟司氏を講師としてお招きし、「生きる力」と題してお話をいただきました。約1,350名の聴講者があり、好評を得ました。大学講義では、県立広島大学にて単位互換「ボランティア活動」を行いました。

なお、管理運営面では、これまで公益法人制度改革への対応を進めてきましたが、計画通り7月1日に内閣府へ公益財団法人への移行の認定申請を行い、10月22日付で認定を受け、11月1日付で特例財団法人の名称変更による公益財団法人設立の登記及び解散の登記を完了しました。

## 科学技術振興関係

### ① 研究助成

機械、電子・情報、材料の3分野の研究26件に、計3,000万円の助成が決定しました。助成金の支払いは、11月末に行います。(国内/公募)

### ② 科学わくわくプロジェクト

小中高生の科学体験の普及を目指す「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学と連携して実施しました。

### ③ 事業助成

研究者による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業13件に、計130万円の助成を行いました。(中国地方/公募)

## 青少年健全育成関係

### ① 研究助成

青少年健全育成に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究5件に、計400万円の助成が決定しました。助成金の支払いは、11月末に行います。(国内/公募)

### ② 市民活動支援

青少年の心豊かな成長の一助となる地域に密着した民間の非営利活動31件に、計800万円の支援をしました。(広島県・山口県/公募)

### ③ 感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて、科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、3施設で2団体と共催しました。

### ④ 講演会の開催

当財団の活動主旨を広く知っていただく活動の一つとして、養老 孟司氏を講師に迎え実施しました。

### ⑤ 大学寄付講義

県立広島大学にて、単位互換「ボランティア活動」の講義を行いました。

事業の概要を以下に記します。

# I. 科学技術振興に関する活動の概要

## I-1. 研究助成

### 1. 募集・応募・選出状況

第26回(2010年度)は、以下により実施しました。

#### (1) 募集

次の内容で募集を行いました。

##### (a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

##### (b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③材料の3分野に係わる先進的・独創的な研究。

##### (c) 募集方法

研究者の所属する機関または部局等の代表者による推薦方式

##### (d) 推薦依頼先

国・公・私立大学の理工学系部局の代表者（学部長、研究科長、研究所長等）、および高等専門学校  
の校長（全国189機関）

(e) 助成金総額 3,000万円

(f) 助成件数 25件程度

(g) 1件当り助成金額 上限200万円

(h) 助成期間 1年または2年

(i) 募集期間 2010年4月20日～6月10日

#### (2) 応募状況

締切りまでに合計356件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・中部以東	180件（51%）
	・関西以西	176件（49%）
(b) 分野別	・機械	75件（21%）
	・電子・情報	73件（21%）
	・材料	208件（58%）
(c) 若手研究者（40才以下）		242件（68%）

#### (3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会（7月23日、24日開催）において慎重に審査された結果、助成候補として26件が選出され、9月27日開催の第82回評議員会および第97回理事会において正式に承認決定されました。

#### (4) 助成贈呈書の贈呈

2010年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

## 2. 助成件数の推移－科学技術振興関係－

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第26回) 2010年度	第25回 2009年度	第24回 2008年度
応募件数(件)	356	325	321
助成件数(件)	26	26	28
助成比率(%)	7.3	8.0	8.7
助成金総額(万円)	3,000	3,000	3,500

(地域別状況)

地域	2010年度		2009年度		2008年度	
	件数	内数	件数	内数	件数	内数
中部以東(件)	180	11	168	14	144	13
近畿(件)	96	6	77	6	81	6
中国・四国(件)	55	7	50	4	65	6
九州・沖縄(件)	25	2	30	2	31	3
合計(件)	356	26	325	26	321	28

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数

(分野別状況)

分野	2010年度		2009年度		2008年度	
	件数	内数	件数	内数	件数	内数
機械(件)	75	6(2)	72	6(2)	64	7(5)
電子・情報(件)	73	6(3)	69	6(4)	79	7(4)
化学系材料(件)	105	7(6)	92	7(5)	92	7(6)
物理系材料(件)	103	7(5)	92	7(6)	86	7(4)
合計(件)	356	26(16)	325	26(17)	321	28(19)

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時  
( )内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

3. 第26回(2010年度) マツダ研究助成一覧 —科学技術振興関係—

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

◇印付きは循環・省資源に係わる研究

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<b>【機械】</b>		
Zr基バルクアモルファス合金の超高サイクル疲労特性の解明 ◇	菊池 将一 立命館大学理工学部助教	110
本申請課題では、原子配列がランダムなアモルファス組織に注目し、高疲労強度部材の作製を試みる。具体的には、Zr基バルクアモルファス合金のき裂発生・進展挙動や、超高サイクル域における疲労破壊機構について検討を行い、疲労過程におけるアモルファス合金の微視組織変化挙動と関連付けて、組織のアモルファス化による疲労特性改善効果を明らかにする。巨視的尺度から微視的尺度にわたる実験結果を統括し、アモルファス合金の疲労破壊機構について統一的な見解を得ることを目的とする。		
金属ガラスに対するCu薄膜溶着技術の開発とはんだ接合への応用	寺島 岳史 大阪大学接合科学研究所特任助教	100
金属ガラス(バルクアモルファス合金)は強度、耐蝕性、水素透過性に優れるため構造材料や環境エネルギー分野で応用が期待されている。しかし接合技術が確立していないため実装が遅れていた。新たな接合への試みとして低温接合法の一種であるはんだ接合を検討しているが、課題はCu基金属ガラスの表面は強固な酸化被膜で覆われているためはんだが全く濡れないことである。改善策として金属ガラス表面にCu薄膜を溶着して酸化被膜の形成の抑止を検討する。これによりCu基金属ガラスに対するはんだの濡れを向上する。		
非線形相互作用を考慮したキャビテーション気泡崩壊に伴う高速噴流解析モデルの開発	栗原 央流 北海道大学大学院工学研究院助教	110
気泡の変形・並進運動に加え、気泡同士および壁面と気泡との非線形相互作用を考慮した新しいキャビテーション気泡の運動方程式を導出する。これによりキャビテーション気泡の崩壊時に見られる、非常に高速な対抗噴流や壁面に対する噴流の高精度な予測が可能となる。本研究により導出される方程式は、キャビテーションによる材料表面の壊食の予測・制御に対する数値シミュレーションの計算速度を飛躍的に(直接数値計算の数十倍程度)向上させ得る。		
イオンビーム支援ナノ傾斜機能表面改質法の確立と疲労強度特性評価	中谷 正憲 兵庫県立大学大学院工学研究科助教	110
セラミックス硬質薄膜のコーティングによる表面改質において、基材と硬質薄膜における界面密着性および硬さの不連続性のために、薄膜が基材との界面ではく離することが問題となっている。本研究では、界面密着性を向上させるためのイオンビーム照射、および硬さの不連続性を解消するために薄膜の組成を金属からセラミックスへと段階的に変化させることによる傾斜機能性を複合させたハイブリッド表面改質手法を確立するとともに、実用化に向けて疲労強度特性を評価して破壊機構を明らかにすることを目的とする。		
固体表面への粗さ付与による吸着分子膜の摩擦低減効果の発現 ◇	青木 才子 東京工業大学大学院理工学研究科助教	100
地球環境負荷低減への対策として、炭素(C)、水素(H)、酸素(O)から構成される潤滑油添加剤による摩擦制御が求められている。例えば、直鎖炭化水素基から成る脂肪酸は摩擦面に吸着して擬固体状の分子膜を形成し、相対運動する固体同士の直接接触を防止し摩擦低減に寄与する一方、分子膜の摩擦挙動は固体間の接触圧や潤滑油粘性、速度などの流体力学的因子の影響を受けるために、これら因子を支配する表面粗さ形状を付与し分子膜の挙動制御を実現してさらなる摩擦低減が可能となる。そこで、本研究では、粗さ付与した固体表面における分子膜の形成およびその摩擦特性を評価して、「表面粗さ付与による分子膜の耐荷重性能の向上」を目指す。		
熱間プレス成型数値シミュレーション技術の開発	濱崎 洋 広島大学大学院工学研究院助教	170
自動車車体の高強度化、軽量化を目的とした熱間プレス成形が注目を集めているが、そのCAE技術は未熟であり早急の開発が望まれる。本研究では、種々の温度およびひずみ速度域に対応可能な高精度応力-ひずみ構成モデルを構築し、それを有限要素法に組み込む。さらに高温変形時の割れ判定手法、および、焼き入れ時のマルテンサイト量予測手法を提案し、熱間プレスの最適工程設計を実現する高精度CAE技術を開発するとともに、簡易実験との比較を行うことでその有効性を検証する。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<b>【電子・情報】</b>		
舌運動機能の解明とインターフェースへの応用	佐々木 誠 岩手大学工学部助教	100
<p>脊髄損傷、脳卒中、脳性麻痺、筋ジストロフィーなどにより、四肢運動機能に重度の障害を持った患者の多くは、あらゆる日常生活動作を介助者に依存することとなり、生きる喜び、楽しみ、意欲、自信を失う傾向が極めて高い。本研究では、かすかに残存する舌運動機能に着目し、非侵襲的かつ簡便に障害者の意思を抽出することで、移動や食事、コンピュータ操作など、一つでも多くの自立的行動を獲得させ、心と体の両側面を工学的に支援するような、新しいヒューマンマシンインターフェース技術を開発する。</p>		
EFB回路を内蔵した低消費電力駆動型デジタルフィルタの開発	中本 昌由 広島大学大学院工学研究院助教	100
<p>低消費電力駆動で優れた特性を有するデジタルフィルタの実現を目指し、回路の設計時に使用するビット長を少なくすることで、デジタルフィルタの駆動時に必要な消費電力の低減化を図る。ただし、ビット長が少なくなると丸め雑音や係数量子化誤差が発生し、デジタルフィルタの性能を劣化させるので、誤差フィードバック (EFB) 回路をデジタルフィルタに内蔵し、さらにフィルタ係数を離散空間で最適設計することで、デジタルフィルタの特性劣化を最小限に抑える。</p>		
剛性可変皮膚構造を持つロボットハンドのためのポスチャベースド把持計画法の開発	渡辺 哲陽 金沢大学理工研究域講師	120
<p>ロボットハンド表面の柔らかさは情報の不確かさや衝撃を吸収し安定把持に寄与する一方で操作性を阻害する。このことを鑑み、状況に応じて表面の剛性を変えられる表面構造を持つロボットハンドシステムの開発を行っている。本研究では、表面剛性可変システムの性能向上、ポスチャベースド把持計画法の開発とそれに基づく制御アルゴリズムの開発を行う。提案把持計画法は、ハンドのポーズをもとに把持を計画する新しい手法で、正確な対象物や指の情報が無くても安定把持可能などの従来法には無い特徴を持つ。</p>		
FMCWレーダーによる電離層プラズマ速度計測手法の研究	北村 健太郎 徳山工業高等専門学校准教授	100
<p>高度80-1000kmにわたる電離層は、多くの宇宙機が運用され人類にとっての新たな生活圏となりつつある。本研究では、短波レーダーを用いた電離層プラズマ変動の新しい計測手法を開発する。従来のイオノゾンデ観測では、周波数帯掃引に数分程度の時間がかかり、観測の時間分解能に大きな制約が生じていた。本手法では、狭い周波数帯に対して高速掃引をかけ、2重フーリエ変換手法を適用することによって電離層プラズマのドップラー速度を計測する。これによって大幅に時間分解能を向上させることが可能となる。</p>		
人工散乱体作製技術における散乱係数評価システムの開発	的場 修 神戸大学大学院システム情報学研究科教授	100
<p>世界的に独自の技術として、フェムト秒レーザー加工によるランダム微小空孔を利用することで散乱係数制御された人工散乱体作製技術を考案している。人工散乱体作製技術は、脳機能計測技術の向上及び安全薄型光メディアの開発に繋がる。人工散乱体作製技術を確立するためには、空孔密度と散乱係数の定量的関係の導出が必須である。本研究では、積分球を用いた散乱光パワー測定および反射型光コヒーレンストモグラフィの結果から散乱係数を同定する技術及びシステムを構築する。</p>		
高速高精度電磁界解析によるテラヘルツ波新規光伝導デバイスの開発	鈴木 健仁 茨城大学工学部助教	160
<p>テラヘルツ波発生素子として重要なテラヘルツ光伝導アンテナは、テラヘルツ波の発生に広く用いられているが、素子構造への解析や考察は確立されていない。本研究は、スペクトル領域法や時間領域差分法による高速高精度電磁界解析技術を駆使してこの問題を取り扱う。さらに、給電部と放射部を最適化設計にすることで高機能なアンテナを提案、開発するとともに、アレー化により一層の効率と利得の向上をはかる。</p>		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【化学系材料】		
共役高分子の側鎖にカルバゾール基を固定化した有機薄膜太陽電池の開発 ◇	鬼村 謙二郎 山口大学大学院理工学研究科准教授	100
有機系太陽電池の発電効率を向上させるためには太陽光を効率的に集光し、光子を電気エネルギーに変換する部位に伝達させることが重要と考えられる。本申請課題では発電効率の高い共役高分子の側鎖に光や電気的に活性なカルバゾール基を扇状（デンドロン構造）に配置することで、光子エネルギーを中心部へ伝達し高効率有機薄膜太陽電池を開発する。「共役高分子」を利用した発電素子は、軽量化が可能で製造ラインも印刷技術を応用することで簡素化が期待できる。		
強磁場印加プロセスを用いた高効率有機薄膜太陽電池の創製 ◇	米村 弘明 九州大学大学院工学研究院准教授	100
現在使用されているシリコン材料を用いた太陽電池に対し、光吸収層（光電変換層）に有機化合物を用いた太陽電池が開発され、大学や企業において研究されている。今後、シリコン太陽電池に取って代わると考えている。ただし、実用化に向けての問題点はエネルギー変換効率や劣化による寿命である。そこで、本研究では強磁場印加プロセスによって有機薄膜におけるナノ構造体を制御し、有機薄膜太陽電池の光電変換効率の向上を達成することで、将来の低コスト有機薄膜太陽電池の創製を目指す。		
太陽光応答性アンテナ部位を有する新規機能性材料の開発研究 ◇	安倍 学 広島大学大学院理学研究科教授	100
豊かな社会を支える科学と科学技術の進歩は、ワクワクする物性を示す物質の構造を見たい・機構を知りたい・その特性を利用したいという人間が本来有する好奇心に起因する。つまり、物質が科学の進歩を促す中心的な役割を果たしている。次世代の科学の進歩には、DNAのらせん構造の発見に匹敵するような現代版のブレークスルーが必要である。本研究では、申請者が世界に先駆け独自に見出してきたπ単結合化合物に焦点を絞り、グリーン・イノベーションに繋がる材料開発研究を実施する。		
核酸塩基部位を有する機能性多核錯体の構築と分子配列制御	志賀 拓也 東北大学大学院理学研究科助教	130
本研究では磁氣的・光学的・電気化学的な多重安定性を持つ分子に核酸塩基部位を導入した化合物群の構築を行い、核酸塩基部位の相補的水素結合を利用して、分子配列を制御することで、高次相互作用の発現を目指す。量子磁性を示す分子素子を近接配置させ、摂動磁場の影響による特異な量子ステップ磁化を発現したり、酸化還元活性な分子素子を連結して、静電的な相互作用を誘起して、酸化数情報の伝達を試みる。意図的に高次相互作用を発現させることで、実用可能な分子回路システムの知見を得ることを目的とする。		
ペロブスカイト型スズ酸塩のナノ構造制御による熱電セラミックスの創製 ◇	安川 雅啓 高知工業高等専門学校准教授	120
エンジンなどの燃焼機関や焼却炉などからの高温廃熱を直接電気エネルギーに変換することのできる熱電酸化セラミックスの開発を行う。ペロブスカイト型構造のLaドーブスズ酸バリウムを対象とし、錯体重合法と放電プラズマ焼結法を用い、10~100nmの範囲で粒径制御したナノ粒子構造を有するセラミックスを作製する。このナノ構造制御により、電気伝導率とゼーベック係数を低下させることなく熱伝導率のみを選択的に低下させ、無次元性能指数の向上と熱電酸化セラミックスの創製を行う。		
強局在電場を発現する規則性金属ハーフシェルアレイ構造体の構築と有機光電変換系への応用 ◇	須川 晃資 日本大学理工学部助手	100
貴金属から成るナノ構造体は、可視領域の光照射によって、構造体周辺に増強された光電場を局在させることが知られており（局在電場）、これを制御するための合目的な貴金属ナノ構造体の構築は当該領域の最重要課題である。本研究では、中でも極めて強い局在電場（ホットスポット）を発現する精緻な金属ハーフシェルアレイ構造体をボトムアップ的に構築し、その局在電場特性を、有機色素分子をプローブとして体系的に研究する。更に、ホットスポットを最大限に活用する、高性能な有機光電変換系への応用展開を行う。		
新原理による卑金属触媒開発研究 ◇	狩野 旬 岡山大学大学院自然科学研究科講師	140
申請者は、(1)強誘電体表面にナノサイズの酸化しない卑金属粒子が安定に存在すること、(2)炭化水素結合から水素を発生するという触媒機能を有すること、を世界に先駆け発見した。この新現象は強誘電体を持つ強い電場が卑金属表面の酸化を妨げると解釈している。強誘電体はPN接合と異なる形で強い電場を有し、その強さは制御可能である。卑金属微粒子による触媒能の発見は、燃料電池技術へのブレークスルーとなりうる。本研究は強誘電体表面に自己組織化し形成される卑金属ナノ粒子の触媒能のさらなる開拓を目的とする。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<b>【物理系材料】</b>		
新しい希土類永久磁石の研究開発	◇ 齋藤 哲治 千葉工業大学工学部教授	100
最近、我々は新しい希土類永久磁石の開発として希土類金属(R)と遷移金属(T)からなるR3T29型やR5T17型と呼ばれる新しい金属間化合物の製造および磁氣的性質の評価を行ってきたところ、希土類金属のサマリウム(Sm)と遷移金属の鉄(Fe)からなるSm5Fe17型金属間化合物が従来までの希土類永久磁石を大きく超える非常に高い保磁力を有することを見出した。本研究では、このSm5Fe17型金属間化合物をベースとする新しい希土類永久磁石の開発とその磁石化について研究する。		
無容器法で合成したErドーピングシリカガラスの発光特性におけるBa添加効果の構造学的解明	増野 敦信 東京大学生産技術研究所助教	110
エルビウム添加光ファイバ増幅器(EDFA)用シリカガラスに対する添加元素効果を原子レベルで明らかにし、さらなる特性向上のための物質設計指針を得る。本研究ではこれまでの計算機シミュレーションの結果を元に、最もシンプルなEr0.1%添加SiO2-BaO系ガラスを基本組成とし、無容器法を用いて合成する。光学特性、局所構造解析、計算機シミュレーションを組み合わせることで、より多角的にBa添加の本質的影響を調べる。		
交流ゲート電圧駆動で発光する有機電界効果トランジスタのメカニズム解明	◇ 山雄 健史 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科助教	120
申請者は、有機発光電界効果トランジスタのゲート電極に交流電圧を印加すると、直流電圧の印加時に比べ発光強度が飛躍的に増大することを見出した。本研究は、この現象のキャリア注入や輸送機構、発光のメカニズム解明を目的とし、①トランジスタへ印加される交流電圧、②トランジスタを流れるキャリア、③トランジスタからの発光、の3つの時間変化を詳細に観測する。得られた結果を効果的なデバイス・デザインの設計指針の確立へと生かし、有機半導体を活性層とする電流注入励起の固体レーザーの実現のための指針とする。		
分子性導電体ナノ結晶による高効率太陽電池の創出	◇ 松田 真生 熊本大学大学院自然科学研究科准教授	100
有機太陽電池の変換効率向上には、短絡電流・開放端電圧・フィルファクターを改善させる必要があり、作製技術・構造と新しい材料・アイデアの革新的な融合が求められている。本研究では、申請者が考案した分子性導電体ナノ結晶薄膜作製法を用い、高導電性の分子性導電体を有機太陽電池に適用することで、高効率太陽電池の創出を目指す。ナノ結晶薄膜を持つ、低抵抗、高結晶性、多様な電子状態の制御が可能と言う点と、電極への直接成長による接触抵抗の抑制や接合界面増大効果は高効率化に有用な特徴と考えられる。		
希少元素を用いない高性能永久磁石創製のための新規強磁性ナノ粒子開発	◇ 中谷 昌史 東北大学多元物質科学研究所助教	200
化石燃料の使用低減に向け、ハイブリッド自動車や電気自動車の普及が進むに伴い、高性能モーターが大量に必要となっている。一般的にモーターの永久磁石には希土類磁石が利用され、性能向上のためディスプレイウムが添加されている。しかしながら、ディスプレイウムは採埋蔵量が有限である。そこで本研究では、非常に高い磁化を有する鉄と非常に高い保磁力を有するイプシロン酸化鉄からなるナノコンポジット磁石を単磁区サイズで調製し、希少元素を利用しない新しい強磁性材料の開発を行なう。		
高温超伝導体コヒーレントTHz光源の周波数制御と高出力化	掛谷 一弘 京都大学大学院工学研究科准教授	100
テラヘルツ領域の光科学は安全安心な社会への現在最も重要なイシューである。本研究では、高温超伝導体からのテラヘルツ電磁波発振現象について、系統的かつ精密な実験により以下の2つの疑問に対し解答を見出すことを目的とする。①THz発振のトリガーは何か?②出力はどこまで上昇可能か?本研究により、高温超伝導体を用いた周波数可変のミリワット級コヒーレント単色連続発振THz光源が現実的なものとなり、既存の半導体レーザー等と相補的にテラヘルツ領域をカバーして安全安心な社会の実現に貢献することが期待される。		
分子間水素結合を用いた自己組織化配向積層膜の創製と有機薄膜太陽電池への応用	◇ 横山 大輔 山形大学大学院理工学研究科助教	100
低コスト化・省資源化に大きく寄与できる次世代太陽光発電システムの有力な候補として、有機薄膜太陽電池の研究が活発に進められている。しかし現在、そのエネルギー変換効率はSi系太陽電池には未だ大きく及ばない。本研究では、その効率を大きく向上させるため、有機材料特有の概念である分子間水素結合を利用し、分子が自己組織的に連結され配向が精密に制御された有機固体積層膜の作製を目指す。膜内における有機分子間の電荷輸送特性、光吸収特性を大きく向上させ、エネルギー変換効率の飛躍的な向上を狙う。		
合 計	26 件	3,000万円

## I-2. 科学わくわくプロジェクト

### (1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取り組むブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有すると共に、教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待されます。

- ・現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・財団と大学の連携事業である。
- ・多様な事業で構成され、地域のネットワークづくりを目指している。

### (2) 助成対象

広島大学科学わくわくプロジェクト研究センター

研究代表者：広島大学大学院教育学研究科 教授 林 武広

### (3) 主要事業

#### ① サイエンスレクチャー（広島会場）：2010年8月1日 開催

- ・講師：広島大学大学院理学研究科 坂本 尚昭 准教授
- ・テーマ：「GFPを使った最新生命科学～細胞の活動をのぞいてみよう～」  
中学生対象（101名）

#### ② サイエンスレクチャー（尾道会場）：2010年12月12日開催予定

- ・講師：広島大学大学院理学研究科 富川 光 講師
- ・テーマ：「砂から探る海の生態～標本づくりを通して学ぶ生物の多様性～」  
中学生対象（50名）

#### ③ ジュニア科学塾

第1回：2010年5月9日開催

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 古賀 信吉 教授
- ・テーマ：「身近な化学」、中学生対象（24名）

第2回：2010年8月7日・8日開催

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授、竹下 俊治 准教授
- ・テーマ：「広島県の自然」、中学生対象（22名）

第3回：2010年10月24日開催

- ・講師：ジュニア科学塾指導グループ
- ・テーマ：「電波をつかまえよう」、中学生対象（20名）

第4回：2010年12月23日開催予定

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 蔦岡 孝則 教授
- ・テーマ：「放射線の性質」、中学生対象

第5回：2011年2月13日開催予定

- ・講師：ジュニア科学塾指導グループ
- ・テーマ：「お楽しみ講座」、中学生対象

④ 科学塾研究室

(2010年6月12日開講、11月6日「広島大学理学部・大学院理学研究科主催 中学生・高校生科学シンポジウム」にて発表)

天文講座

- ・塾 長：広島大学宇宙科学センター 大杉 節 特任教授
- ・テーマ：「複数の散開星団の色等級図と年齢推定」、高校生対象 (2名)

生物化学講座

- ・塾 長：広島大学大学院理学研究科 泉 俊輔 教授
- ・テーマ：「豆腐の中の化学ータンパク質はなぜ固まるのか?」、高校生対象 (1名)

細胞生物講座

- ・塾 長：広島大学大学院理学研究科 細谷 浩史 教授
- ・テーマ：「細胞内における微小管構造の維持にアクチン繊維は関与しているのか?」  
高校生対象 (3名)

遺伝学講座

- ・塾 長：広島大学大学院自然科学研究支援開発センター 田中 伸和 教授
- ・テーマ：「タバコ属植物に残るアグロバクテリウム感染の痕跡」、高校生対象 (1名)

海洋生物講座

- ・塾 長：広島大学大学院理学研究科 浦田 慎 助教
- ・テーマ：「ギボシムシの発光現象の観察」、高校生対象 (1名)

⑤ 小学校理科ひろば：

- ・講 師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授 他
- ・テーマ：授業実践講座または模擬授業

(4) 実施額 450万円

## I-3. 事業助成

### 1. 募集・応募・選出状況

第26回（2010年度）は、以下により実施しました。

#### (1) 募集

次の内容で募集を行いました。昨年度に引き続き、募集期間を前期・後期の年2回としました。

##### (a) 助成趣旨

学会・研究機関等が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものに対し、その費用の一部もしくは全額を助成します。

##### (b) 助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校に所属（常勤）し、申請事業の開催責任者または出版物の主なる著者によって、2010年6月から2011年5月に実施される

- ・ 研究者による「科学体験」事業の開催
- ・ 学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・ 「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・ その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法	事業責任者による申請方式
(d) 対象地域	中国地方
(e) 助成金総額	150万円
(f) 助成件数	15件程度（前期：10件程度、後期：5件程度）
(g) 1件当たり助成金額	10万円
(h) 助成期間	2010年6月から2011年5月
(i) 募集期間	（前期）2010年4月1日～4月22日 （後期）2010年7月1日～7月22日

#### (2) 応募・選出状況

本年度は、前期15件、後期4件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・ 鳥取県 0件	・ 広島県 5件
	・ 島根県 2件	・ 山口県 3件
	・ 岡山県 9件	
(b) 分野別	(1) 体験事業の開催	17件
	(2) 研究会等の開催	2件
	(3) 成果出版物の発刊・教材等の試作	0件
	(4) その他	0件
(c) 若手研究者(40才以下)		11件(58%)

#### (3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会(5月17日、8月17日)において慎重に審査された結果、助成候補として13件が選出され、第81回評議員会および第96回理事会(6月18日開催)ならびに、第82回評議員会および第97回理事会(9月27日開催)において報告されました。

## 2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第26回) 2010年度	第25回 2009年度	第24回 2008年度
応募件数 (件)	19	26	13
助成件数 (件)	13	15	10
助成比率 (%)	68%	58%	77%
助成金総額 (万円)	130	150	100

(地域別状況)

地 域	2010年度		2009年度		2008年度	
	応募	助成	応募	助成	応募	助成
鳥 取 県 (件)	0	0	1	1	1	1
島 根 県 (件)	2	1	4	2	3	3
岡 山 県 (件)	9	6	8	6	3	3
広 島 県 (件)	5	4	8	3	5	2
山 口 県 (件)	3	2	5	3	1	1
合 計 (件)	19	13	26	15	13	10

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

分 野	2010年度		2009年度		2008年度	
	応募	助成	応募	助成	応募	助成
(1) 体験事業の開催 (件)	17	11	22	13	11	9
(2) 研究会等の開催 (件)	0	0	2	2	0	0
(3) 成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件)	2	2	1	0	1	1
(4) その他 (件)	0	0	1	0	1	0
合 計 (件)	19	13	26	15	13	10

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

### 3. 第26回(2010年度)マツダ事業助成一覧 —科学技術振興関係—

事業名 ([ ]内は小・中・高生の参加者数)	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間
体験型授業に適用するための水生生物を模した水中ロボットの試作研究 参加者数:3名 発表:1	開催地:津山市 細谷 和範 津山工業高等専門学校 講師	2010.6.1~2011.3.31
環境に優しい超伝導を利用したリニアモーターカーを体験しよう 参加者数:700名 [内、460名]	開催地:広島県 豊田郡 井田 徹哉 広島商船高等専門学校 准教授	2010.7.1~2011.2.15
こどもロボット製作教室 —ロボットを組み立てて仕組みを知ろう— 参加者数:10名 [内、10名]	開催地:竹原市 今井 慎一 広島商船高等専門学校 助教	2010.8.25
バイオ・キッズ in BINGO(備後) —福山大学生命工学部バイオサイエンス公開実験・小学生の部— 参加者数:120名 [内、50名] 講演:5	開催地:福山市 秦野 琢之 福山大学生命工学部 教授	2010.7.24
ロボットアーム工作に挑戦 —はんだ付けや電子部品を学習しロボットを操縦しよう— 参加者数:50名 [内、50名]	開催地:松江市 福間 真澄 松江工業高等専門学校 教授	2010.8.9
岡山大学農学部公開講座(農学部で学ぶ生命科学実験講座) 参加者数:25名 [内、15名] 講演:1、発表:1	開催地:岡山市 岡山大学自然生命科学支援センター 金尾 忠芳 助教	2010.8.9~2010.8.10
岡山大学農学部ジュニア講座「ブドウ'ピオーネ'の房づくり体験」 参加者数:40名 [内、20名] 講演:4	開催地:岡山市 岡山大学大学院自然科学研究科 福田 文夫 助教	2010.5.29~2010.10.2
レゴブロックを用いた小中学生向けロボット製作実習 参加者数:20名 [内、20名] 講演:1	開催地:津山市 八木 秀幸 津山工業高等専門学校 助教	2010.7.27~2010.7.29
手作りモデルロケットを飛ばそう —ロケットを支える基本原理を学ぼう— 参加者数:30名 [内、25名] 講演:1、発表:1	開催地:周南市 三浦 靖一郎 徳山工業高等専門学校 助教	2010.7.31
理系を目指そう小学生を対象とした鋳造ものづくり体験学習会 参加者数:70名 [内、50名]	開催地:広島市 松木 一弘 広島大学大学院工学研究院 教授	2010.11.7
天体観測会 2010 —君も未来のガリレオだ!— 参加者数:90名 [内、60名] 講演:3	開催地:津山市 佐々井 祐二 津山工業高等専門学校 教授	2010.12.21
OUSサイエンス・プログラム —アインシュタイン博士も見たかった原子の像を観よう— 参加者数:15名 [内、15名]	開催地:岡山市 助台 榮一 岡山理科大学工学部 教授	2011.3.15
デジタルの仕組み(2進数)を理解して、音楽を演奏しよう 参加者数:10名 [内、10名]	開催地:周南市 徳山工業高等専門学校教育研究支援センター 技術専門員 山本 孝子	2010.10.30
<b>合計</b>	<b>13件</b>	<b>130万円</b>

## Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要

### Ⅱ-1. 研究助成

#### 1. 募集・応募・選出状況

第26回(2010年度)は、以下により実施しました。

##### (1) 募集

次の内容で募集を行いました。

##### (a) 助成趣旨

工業化社会、情報化社会の著しい進展による社会環境の変化は、国民の社会生活に多様な影響を及ぼしています。中でも青少年の健全な心身の発達を阻む面のあることを認めざるをえません。今日生涯の各段階において、人間形成上あるいは社会生活上、絶えず自ら学習することの必要が叫ばれ、そのための学習基盤の整備充実を進めることが求められておりますが、中でも青少年段階におけるそれは重要であると考えます。

こうした青少年の健全な育成、あるいは青少年期における自らの学習への支援を通して、心豊かに生きることの出来る社会の実現を願い、そのためのすぐれた研究に対し、その一助として費用の一部もしくは全部を助成します。

##### (b) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究を対象とします。

対象研究分野：①青少年をとりまく環境 ②コミュニティづくり ③ボランティア育成 ④科学体験  
⑤前各号に類する分野

##### (c) 募集方法

研究者の所属する機関の代表者による推薦方式

##### (d) 推薦依頼先

国・公・私立大学教育学部を主体に青少年健全育成関係機関の機関長

(e) 助成金総額	400万円
(f) 助成件数	4～5件
(g) 助成期間	1年または2年
(h) 募集期間	2010年4月20日～6月30日

##### (2) 応募状況

締め切りまでに34件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・中部以東	20件(59%)
	・関西以西	14件(41%)
(b) 分野別	・青少年をとりまく環境	20件(59%)
	・コミュニティづくり	4件(12%)
	・ボランティア育成	1件(3%)
	・科学体験	4件(12%)
	・前各号に類する分野	5件(14%)

##### (3) 助成対象の選出

選考委員会(8月6日)において慎重審議の結果、助成候補として5件が選出され、第82回評議員会および第97回理事会において正式に承認決定されました。

##### (4) 助成金贈呈書の贈呈

2010年10月に申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

## 2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

### (応募件数および助成件数)

	本年度(第26回) 2010年度	第25回 2009年度	第24回 2008年度
応募件数(件)	34	36	39
助成件数(件)	5	5	7
助成比率(%)	15	14	18
助成金総額(万円)	400	400	550

### (地域別状況)

地域	2010年度		2009年度		2008年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東(件)	20	2	21	3	17	2
近畿(件)	3	0	7	0	11	2
中国・四国(件)	7	2	5	1	10	2
九州・沖縄(件)	4	1	3	1	1	1
合計(件)	34	5	36	5	39	7

(左側数字: 応募件数, 右側数字: 助成件数)

### (分野別状況)

分野	2010年度		2009年度		2008年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
青少年をとりまく環境(件)	20	3	18	2	21	2
コミュニティづくり(件)	4	1	3	1	1	1
ボランティア育成(件)	1	1	3	0	2	1
科学体験(件)	4	0	5	1	7	1
前各号に類する分野(件)	5	0	7	1	8	2
合計(件)	34	5	36	5	39	7

(左側数字: 応募件数、右側数字: 助成件数、分類は審査時)

### 3. 第26回(2010年度) マツダ研究助成一覧 –青少年健全育成関係–

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
<p>高等学校の文化系部活動におけるボランティア学習に関する実証的研究—インターアクトクラブを事例とした検討—</p> <p>本研究では、高等学校の文化系部に所属する高校生のボランティア学習に対する意識・実態とボランティア学習による学習効果を検証することを目的とする。研究方法としては高校生と部活動の顧問を対象とした質問紙調査、聞き取り調査及び活動見学を行い、量的側面と質的側面から多角的に検討する。文化系部活動の中でも地域との関わりが強いインターアクトクラブに着目することで、学校教育だけではなく地域社会との連携・協働も視野に入れた活動の展開とそこでのボランティア育成の在り方を考察することが可能となる。それを踏まえて、文化系部活動におけるボランティア学習の方向性を提案する。</p>	<p>林 幸 克 岐阜大学大学院教育学研究科准教授</p>	70
<p>滞日日系ブラジル人児童生徒の進路決定支援の試み</p> <p>出稼ぎ目的で来日し定住する日系ブラジル人(以下、ブラジル人)は2008年末で31万人を超え、その子ども達に学校不適應の問題が顕著である。彼らの多くは日本の公立学校に通っているが、学習思考言語としての日本語の習得が不十分で、学力不振に陥る場合が多い。また、親は教育制度や子どもの現状を十分に把握していない。これらのことからブラジル人の子ども達は、主体的に進路決定に向き合えない状況にある。そこで本研究では、ブラジル人児童生徒の進路決定を支える支援の方法を検討する。</p>	<p>谷 渕 真 也 比治山大学現代文化学部助教</p>	100
<p>被虐待児の社会的自立に向けた健全育成のための地域連携に関する社会学的考察—家族・教育現場・児童相談所等による協働の実際に焦点づけて</p> <p>昨今報道されている青少年への虐待は、彼らが近い将来社会で自活していく社会的自立の機会を奪うことである。これは、単に家族の個人的問題ではなく、貧困家族等の社会構造に多く起因して地域社会の今後にも打撃をもたらす、われわれにとって深刻な社会問題といえる。そこで、本研究では一般に身体暴力のイメージの強い「児童虐待」のうち、長期的見地から防ぎ健全育成するために、主にネグレクトによる被虐待児を対象とする。この際、本研究では児相を中心とする市町村や医療など関係機関との「地域連携」で従来看過されてきた、被虐待児と家族にとって最善の幸福をめざす「地域連携」とは何か社会学的に明らかにする。</p>	<p>蓮 尾 直 美 三重大学教育学部教授</p>	70
<p>NPO, 大学, 行政, 市民の連携による中高生の居場所形成に関するアクション・リサーチ</p> <p>子どもの居場所については現在全国レベルで多様な取り組みがなされているが、子どもから大人になる移行期にある中高生については、この時期の発達課題のむずかしさと合わせて、中高生の発達のニーズに応える居場所のあり方について基礎的な研究が不足している。本研究は、これまで試行的に行なってきた中高生の居場所の運営形態およびそこに集まる青年達の仲間関係の意識と行動について、NPO、大学、行政および市民との連携による「中間地帯」を形成しながらその過程を検証するアクション・リサーチを行なう。</p>	<p>南 博 文 九州大学教育学部教授</p>	70
<p>ヒロシマ型平和教育プログラムの開発と評価</p> <p>本研究は、道徳性発達理論を踏まえた平和イメージ測定の標準ツールの開発と平和イメージの育成に有用な教材および教育プログラムの開発を目指すものである。近年、平和教育を取り巻く状況は大きく変化しつつある。本研究は、現代的な教育課題としての平和教育について、道徳性発達理論を踏まえた平和イメージを測定する標準ツールを開発すること、近年の教育的ニーズに対応した平和教育に有用な教育プログラムを開発することを目的とする。</p>	<p>沖 林 洋 平 山口大学教育学部講師</p>	90
<b>合 計</b>	<b>5件</b>	<b>400万円</b>

## Ⅱ－２．市民活動支援

### 1．募集・応募・選出状況

第26回(2010年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

#### (1) 募集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

- |              |  |
|--------------|--|
| (a) 対象活動     | 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動<br>①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯<br>④エコ ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり |
| (b) 募集地域     | 広島県、山口県  |
| (c) 支援期間     | 単年度支援 2010年4月1日～2011年3月31日の1年間   |
| (d) 支援金総額    | 800万円  |
| (e) 1件当り支援金額 | 10万円～50万円  |
| (f) 募集期間     | 2009年10月14日～2010年1月14日   |

#### (2) 応募状況

締切日までに92件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- |         |             |          |
|---------|-------------|----------|
| (a) 地域別 | ・広島県        | 31件(34%) |
|         | ・広島市        | 33件(36%) |
|         | ・山口県        | 28件(30%) |
| (b) 分野別 | ・自然とのふれあい   | 12件(13%) |
|         | ・ボランティア育成   | 13件(14%) |
|         | ・地域連帯       | 41件(45%) |
|         | ・エコ         | 7件(8%)   |
|         | ・国際交流・協力    | 14件(15%) |
|         | ・科学体験・ものづくり | 5件(5%)   |

#### (3) 支援対象の選出

選考委員会(2010年2月26日、27日開催)での審議の結果、支援候補として、総計31件800万円が選出され、2010年3月24日開催の第80回評議員会および第94回理事会において正式に承認決定されました。

#### (4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・広島県 2010年4月19日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の21団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・山口県 2010年4月23日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の10団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

## 2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および支援件数)

	本年度(第26回) 2010年度	第25回 2009年度	第24回 2008年度
応募件数 (件)	92	97	79
支援件数 (件)	31	32	30
支援比率 (%)	34	33	38
支援金総額 (万円)	800	800	800

(地域別状況)

地 域	2010年度		2009年度		2008年度	
	左	右	左	右	左	右
広島県 (件)	31	12	35	13	26	10
広島市 (件)	33	9	36	12	35	11
山口県 (件)	28	10	26	7	18	9
合計 (件)	92	31	97	32	79	30

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

(分野別状況)

分 野	2010年度		2009年度		2008年度	
	左	右	左	右	左	右
自然とのふれあい (件)	12	4	20	4	11	1
ボランティア育成 (件)	13	6	14	5	14	7
地域連帯 (件)	41	12	39	16	35	14
エコ (件)	7	2	4	2	9	4
国際交流・協力 (件)	14	5	8	1	6	1
科学体験・ものづくり (件)	5	2	12	4	4	3
合計 (件)	92	31	97	32	79	30

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

### 3. 第26回(2010年度) マツダ市民活動支援一覧 - 青少年健全育成関係 -

活 動 名	団 体 名 (代 表 者)	地 域	金額 (万円)
第8回おのみち100km徒歩の旅	特定非営利活動法人おのみち寺子屋 (理事長 柿本 和彦)	広島県 尾道市	50
「宮園小学校にビオトープを造ろう」	ふるさと宮園ビオトープの会 (会長 小林 秀樹)	広島県 廿日市市	15
第2回くれ絵本カーニバルの開催	くれ絵本カーニバル実行委員会 (委員長 長町 三生)	広島県 呉市	15
市民協働による省エネ手作り玩具工作の普及と環境美化	晴海町・青壮会 (会長 山本 正)	広島県 呉市	23
2010呉子ども祭	呉子ども祭実行委員会 (実行委員長 藤田 繁逸)	広島県 呉市	20
B&Cタッチステーションを各地に広げよう B&Cタッチサポーター研修	B&Cタッチ・ステーションの会 (会長 磯井 裕子)	広島県 呉市	30
東広島おもちゃ図書館ピノキオ10周年記念行事	ひまわり (代表 増井 里恵)	広島県 東広島市	20
高校生による環境教育・学習活動	高校生環境ネットワーク広島 (代表 竹本 伸)	広島県 広島市	15
伴南学区における地域安全対策活動	伴南学区安全対策連絡協議会 (会長 守安 宏史)	広島県 広島市	30
都市活性化事業「都市ギャラリープロジェクト」	広島市立大学都市ギャラリープロジェクトチーム (代表 金 泰旭)	広島県 広島市	25
吉島地域の地元住民である町職人と小学生が連携した「小学生のための物づくり体験」	よしじま職人工房 (代表 安田 茂)	広島県 広島市	32
世界の遊びを体験してみよう!	カモミール〜ラマンカ〜 (代表 蘆田 智絵)	広島県 東広島市	10
創作合唱オペラ「いのものけ」公演(初演)	創作合唱オペラ「いのものけ」公演実行委員会 (実行委員長 前田 茂)	広島県 三次市	30
若者と描く「多文化共生のまち廿日市」の夢	ええじゃん (Asian) (代表 栗林 克行)	広島県 廿日市市	30
スイゲンゼニタナゴを知ろう! 守ろう! ~郷土の生きた宝ものを地域で守る~	スイゲンゼニタナゴを守る市民の会 (会長 蔵本 成洋)	広島県 福山市	30
こどもの広場	こどもの広場実行委員会 (代表 遊井 勝美)	広島県 広島市	20
子ども森林ボランティア養成講座「もりメイトキッズ」	もりメイト倶楽部Hiroshima (会長 見勢井 誠)	広島県 広島市	40
ONE HOME PROJECT (ワン・ホーム・プロジェクト)	Global Bridge (代表 山崎 唯美)	広島県 広島市	20
学生ボランティア「ほんわかプロジェクト」の定着と実践活動への支援	ほんわかプロジェクト応援団 (代表 石井 眞治)	広島県 広島市	42
中高生ボランティア育成	特定非営利活動法人ワーカーズコープ広島支部 (児童センター長 神山 剛)	広島県 安芸郡	32
エコ学習の実践	大学環境ネットワーク協議会 (会長 森嶋 彰)	広島県 広島市	32
一般公募における、小グループ活動を中心とした青少年対象野外教育「クラブ事業」	キララ・カウんセラーズ・クラブ (代表 永山 康昭)	山口県 山陽小野田市	21
山口ひびき少年塾-ぼくらの/ふるさと探検/タウンウォッチング-	山口ひびき少年塾 (塾長 神代 祥男)	山口県 山口市	18
子どもたちと進める里山復活大作戦	Seeds (シーズ) (会長 西本 利治)	山口県 柳井市	21
子どもドリームスクール2010	ドリームスクール実行委員会 (理事長 中田 智加江)	山口県 周南市	27
ものづくり科学教室	日本宇宙少年団 周南分団 (分団長 志水 慶一)	山口県 光市	10
外国人留学生と平川地域における青少年健全国際交流活動	国際交流ひらかわの風の会 (会長 中村 幸士郎)	山口県 山口市	30
幼児、小学生読み聞かせ活動推進支援事業	防府市読書グループ連絡協議会 (会長 大田 和子)	山口県 防府市	12
香月泰男生誕100年記念 小・中・高校生のための教材制作~わたしのシベリア~	特定非営利活動法人子どもとともに山口県の文化を育てる会 (理事長 山田 宏)	山口県 山口市	30
「古泉城彦六(こせんじょうひころく)物語」紙芝居プロジェクト	古泉城ニコマル文庫 (主宰 伊藤 理絵)	山口県 萩市	20
自閉症・発達障害の子どもをサポートするボランティアのためのハンドブック及びDVD作成	自閉症児を育てるママたちの会 ママかん (代表 新田 圭子)	山口県 山口市	50
<b>合 計</b>	<b>31件</b>		<b>800万円</b>

## Ⅱ－３．感動塾・みちくさ

感動塾・みちくさの実施概要は、次のとおりです。

### (1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、平成10年度から実施しています。

### (2) 共同開催

(財)広島市 ひと・まち ネットワーク、(株)損害保険ジャパンとの共催。

### (3) 開催場所・開催日等

#### ① 広島市青少年野外活動センター

・2010年8月10日～8月12日

・テーマ：「-FLY INTO THE SKY-気球に乗って、空に飛び出そう！」

・ねらい 実際には熱気球に乗ったり、みんなで描いた地上絵を気球カメラで見たり、ロケットを発射させてその力を確かめたり、暗闇のなか輝く星空をみんなで眺めたりして、それらの驚きや感動を感じてもらうとともに、その不思議さや仕組みを理解し、探求する力を育てたい。事業を通じて身のまわりの自然や科学について興味や関心をもってもらいたい。いろいろな人と関わりながら探求する力や創意工夫する力をつけてほしい。

・参加者：小学3～4年生 48名

#### ② 広島市三滝少年自然の家

・2010年8月23日～8月25日

・テーマ：「風とエネルギー」

・ねらい 子どもの好きな工作や実験を通して自身が持っている理科好きを引き出し、創造力や探究心を培う。

自然(風)のエネルギーに目を向けさせ、実験・観察をして科学に対する興味・関心を持たせるとともに、問題解決能力を育てる。

エネルギーを作るとともに、省エネや環境についても考察させる。

・参加者：小学4～6年生 48名

#### ③ 広島市似島臨海少年自然の家

・2010年10月9日～10月11日

・テーマ：「似島の海と空」

・ねらい 似島の海を舞台に体験的な活動を通して観察を行わせ、問題解決の能力を身につけさせるとともに、理科に対する関心、意欲を育てる。

自然への働きかけや、体験を通して自然に親しませ、身の回りの自然に対する興味を深めさせる。

・参加者：小学4～6年生 32名

### (4) 実施額

100万円(マツダ財団負担分)

## Ⅱ－４．第２９回講演会

青少年健全育成に関する講演会を、講師に養老孟司氏（東京大学名誉教授）を迎え、「生きる力」と題して開催しました。講演の案内は県・市の教育委員会やPTAへ行い、また新聞紙上を通じて広く聴講希望者を募りました。

当日は1,350人の聴講者を迎え、盛会のうちに終えることができました。

講師からは、「子どもには、やってみなくてはわからないことは、多少危険でもやらせてみる必要があるのでは」といった、子どもたちの日々の「生きる力」や、名著『夜と霧』に触れ、「アウシュビッツ収容所でただ一人生き残った فرانクルは、偶然が何度も重なったように述べているが、実は、最後の最後まで生きようともがいた、生きる意志・生きることへの執着の結果です」と、人として生きることの本質的な意味を問いかける「生きる力」まで、豊富な事例を交えて話されました。

講演後のアンケートでは、「ユーモアを交えた豊富な話題で、非常に楽しく学ばせていただきました」「生き方に迷いが出てきている自分にアドバイスを貰った気がする」といった多くの感想をいただき、聴講された方々には大いに満足していただけたものと察しています。

講演会の概要は、次のとおりです。

- (1) 講 師： 養老 孟司氏（東京大学名誉教授）
- (2) 演 題： 「生きる力」
- (3) 開 催 日： 2010年11月17日(水)
- (4) 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール
- (5) 聴講者数： 1,350名

## II-5. 大学寄付講義の実施概要

社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、「柔らかな社会」「地球の有限性」「人類愛」「国際化・グローバル化」を共通キーワードとして、地域の大学に対する寄付講義を実施しました。マツダ財団は各講座の企画、講師調整、講義準備、講座運営を担い人材、ノウハウ、コンセプト、講義等の提供による助成を行いました。また、マツダ財団のネットワークや人的資源を活かした講師派遣も行いました。

### 1. 対象学生と目的

(1)工学系学生（今年度開講なし）

近年、社会は高度かつ複雑に変化し、技術も多様な側面を持ちつつあります。次代の技術者として必要な社会における技術の多角的な視点（環境・情報・国際化・技術者倫理等）について、次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

(2)人文系学生

社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかな社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

### 2. 特徴

- ①複数の協力機関からの講師陣
- ②キーワードによる講義の一貫性の保持
- ③大学毎の特徴づけ
- ④学生と講師の双方向授業

### 3. 実施講義

実施内容は、以下のとおりです。

大学名	講義科目	期間	講師所属機関	特徴	開講年度
県立広島大学	ボランティア活動	2010 5.22, 29 集中講義  夏休み実習	ひろしま市民活動ネットワークHEART to HEART (特活)ひろしまレクリエーション協会 広島国際学院大学 (特活)ANT-Hiroshima ひろしままちづくりファシリテーターズ	広島県内単位互換科目。講義と実地研修とを組合せた形で、ボランティア理解、ボランティア活動に必要なリーダーシップの育成・チームワーク力の醸成、ボランティア活動参加による感動体験を得ることを目的として実施。20名が15箇所の事業所や団体でボランティアとして活動した。	2000年

以上の他、広島大学「コミュニケーション能力開発特別講義（ディベート演習）」、県立広島大学「インターンシップ実習・ビジネスマナー講座」へ講師派遣を行った。

### Ⅲ. 管理事項の概要

#### Ⅲ-1. 役員等に関する事項

##### 1. 平成22年10月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職	名 前	就任年月日	最初の就任年月日	役 職
理 事 長 非	山 内 孝	平成22年4月1日(再任)	平成19年6月27日	マツダ株式会社 代表取締役会長兼社長
専務理事 非	黒 沢 幸 治	平成22年4月1日(再任)	平成19年6月27日	マツダ株式会社 常務執行役員
常務理事 常	山 根 英 幸	平成22年4月1日(再任)	平成20年4月1日	財団法人マツダ財団 事務局長
理 事 非	上 田 宗 冏	平成22年4月1日(再任)	平成20年4月1日	上田宗箇流 家元
理 事 非	大 田 哲 哉	平成22年4月1日(再任)	平成19年11月16日	広島商工会議所 会頭
理 事 非	片 山 義 弘	平成22年4月1日(再任)	昭和59年10月26日	広島大学 名誉教授
理 事 非	川 本 一 之	平成22年4月1日(再任)	平成18年4月1日	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事 非	櫛 本 功	平成22年4月1日(再任)	平成20年4月1日	広島大学 名誉教授
理 事 非	山根 八洲男	平成22年4月1日(新任)	平成22年4月1日	広島大学 副学長
理 事 非	山 野 正 登	平成22年4月1日(再任)	昭和59年10月26日	有人宇宙システム株式会社 相談役

(五十音順・敬称略)

監 事 非	友 田 民 義	平成22年4月1日(再任)	平成17年4月1日	公認会計士
監 事 非	藤 本 哲 也	平成22年4月1日(再任)	平成20年6月16日	マツダ株式会社 財務本部副本部長

(五十音順・敬称略)

財団役職	名 前	就任年月日	最初の就任年月日	役 職
評 議 員 非	赤 岡 功	平成21年4月1日(再任)	平成19年6月27日	県立広島大学長
評 議 員 非	浅 原 利 正	平成21年4月1日(新任)	平成21年4月1日	広島大学長
評 議 員 非	大 杉 節	平成21年4月1日(新任)	平成21年4月1日	広島大学宇宙科学センター 特任教授
評 議 員 非	佐 藤 次 郎	平成21年4月1日(再任)	平成14年4月1日	財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員 非	竹 林 守	平成21年4月1日(再任)	平成18年6月19日	マツダ株式会社 相談役
評 議 員 非	堀 憲 次	平成22年4月9日(新任)	平成22年4月9日	山口大学 工学部長
評 議 員 非	山 木 勝 治	平成22年3月24日(新任)	平成22年3月24日	マツダ株式会社 代表取締役副社長執行役員
評 議 員 非	山 中 昭 司	平成21年4月1日(再任)	平成16年4月1日	広島大学大学院 工学研究院 特任教授
評 議 員 非	山 西 正 道	平成21年4月1日(再任)	平成15年4月1日	広島大学 名誉教授
評 議 員 非	吉 田 総 仁	平成21年4月1日(新任)	平成21年4月1日	広島大学大学院 工学研究院長
評 議 員 非	渡 辺 一 秀	平成21年4月1日(再任)	平成19年6月27日	マツダ株式会社 相談役

(五十音順・敬称略)

##### 2. 役員等の異動状況

- ・山内 孝、黒沢 幸治、山根 英幸、上田 宗冏、大田 哲哉、片山 義弘、川本 一之、櫛本 功、山野 正登の9氏は、平成22年4月1日理事に再任された。
- ・山根 八洲男氏は、平成22年4月1日理事に選任された。
- ・友田 民義氏及び藤本 哲也氏は、平成22年4月1日監事に再任された。
- ・三浦 房紀氏が平成22年4月8日評議員を退任し、堀 憲次氏が平成22年4月9日評議員に選任された。
- ・赤岡 功、浅原 利正、安藤 周治、宇津木 健太郎、大杉 節、佐藤 次郎、竹林 守、堀 憲次、山木 勝治、山中 昭司、山西 正道、吉田 総仁、渡辺 一秀の13氏は、平成22年11月1日、公益財団法人マツダ財団の最初の評議員として就任した。
- ・大田 哲哉氏は、平成22年11月10日理事を退任した。

### Ⅲ－２．職員に関する事項

役職名	名 前	就任年月日	主たる担当職務
事務局長 事務局長代理	山根英幸 西川俊秀	平成20年3月1日 平成20年7月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局統括</li> <li>・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項</li> <li>・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項</li> <li>・大学講義開講に関する事項</li> <li>・事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項</li> <li>・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項</li> <li>・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項</li> <li>・大学講義開講に関する事項</li> <li>・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項</li> <li>・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項</li> <li>・大学講義開講に関する事項</li> <li>・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項</li> <li>・財務・会計に関する事項</li> <li>・講演会開催に関する事項</li> <li>・大学講義開講に関する事項</li> </ul>
事務局長代理	永松貴文	平成13年5月1日	
総務課長	世良和美	平成17年7月1日	
	河村英子	平成16年8月1日	

### Ⅲ－３．理事会・評議員会等、主な活動事項

(理事会)

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第95回理事会	平成22年4月9日	議案1：理事長、専務理事及び常務理事選任の件 議案2：評議員1名選出の件 議案3：新制度における最初の評議員候補推薦の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第96回理事会	平成22年6月18日	議案1：平成21(2009)年度事業報告及び収支決算承認の件 議案2：最初の代表理事及び業務執行理事選定の件 議案3：定款の変更の案承認の件 議案4：諸規程の制定及び改定の件 (1)役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程(制定) (2)寄附金等取扱規程(制定) (3)理事会運営規程(全面改定) (4)評議員会運営規程(全面改定) 議案5：移行認定申請書承認の件 議案6：基本財産の指定の件 議案7：選考委員1名選出の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第97回理事会	平成22年9月27日	議案1：第26回(2010年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 議案2：第27回(2011年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件 議案3：「移行認定申請書」申請後の修正の件 議案4：「定款の変更の案」修正の件 議案5：「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程」修正の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

## (評議員会)

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第81回評議員会	平成22年6月18日	議案1：平成21(2009)年度事業報告及び収支決算承認の件 議案2：定款の変更の案承認の件 議案3：諸規程の制定及び改定の件 (1)役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程(制定) (2)寄附金等取扱規程(制定) (3)理事会運営規程(全面改定) (4)評議員会運営規程(全面改定) 議案4：移行認定申請書承認の件 議案5：基本財産の指定の件	原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり承認  原案どおり承認 原案どおり承認
第82回評議員会	平成22年9月27日	議案1：第26回(2010年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 議案2：第27回(2011年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件 議案3：「移行認定申請書」申請後の修正の件 議案4：「定款の変更の案」修正の件 議案5：「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程」修正の件	原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり承認

## (本年度の主な活動 - 上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第26回マツダ研究助成候補の募集	平成 22.4～6	科学技術振興関係、青少年健全育成関係
第26回(2010年度)青少年健全育成市民活動支援贈呈書の贈呈	22.4.19、4.23	助成31団体に対し、贈呈書を贈呈
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	22.5.9、8.7～8.8 10.24	広島大学との連携事業
大学講義(県立広島大学)	22.5.22、5.29	(広島県内単位互換科目)「ボランティア活動」
科学わくわくプロジェクト「科学塾研究室」開講	22.6.12～22.11.6	広島大学との連携事業
平成22年度選考委員会(科学技術振興関係)	22.7.23、7.24	第26回マツダ研究助成対象の審議・選出
科学わくわくプロジェクト「サイエンスレクチャー(広島会場)」開催	22.8.1	広島大学との連携事業
平成22年度第2回選考委員会(青少年健全育成関係)	22.8.6	第26回マツダ研究助成対象の審議・選出
「感動塾・みちくさ」実施	22.8.10～8.12 22.8.23～8.25 22.10.9～10.11	(財)広島市ひと・まちネットワークと共催
第26回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	22.10～	助成対象者に対し、贈呈書を贈呈

### Ⅲ－４．主務官庁届出に関する事項

届出先	届出年月日	届出事項
文部科学大臣(文部科学省研究振興局振興企画課奨励室)	平成22. 4. 8	登記事項(理事)の変更及び監事の変更届
文部科学大臣(文部科学省研究振興局振興企画課奨励室)	平成22. 6. 28	平成21年度事業報告及び収支決算報告

### Ⅲ－５．主務官庁認可に関する事項

届出先	申請年月日	申請事項	認可年月日
文部科学大臣 (文部科学省研究振興局振興企画課奨励室)	平成22. 3. 25	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第92条の規定により、最初の評議員の選任に関する理事の定めについて認可を受けるための申請	平成22. 4. 26

### Ⅲ－６．所管行政庁認定及び届出に関する事項

届出先	申請等年月日	申請事項等	認定年月日
内閣総理大臣 (内閣府公益認定等委員会)	平成22. 7. 1 平成22. 10. 8 平成22. 10. 15 平成22. 10. 22	移行認定申請 公益認定等委員会の諮問へ付議 公益認定等委員会より認定の答申 答申書交付	平成22. 10. 22

### Ⅲ－７．登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局海田出張所	平成22. 4. 1	理事変更登記 ・平成22年4月1日 下記9氏 理事を重任 山内 孝、黒沢 幸治、山根 英幸、上田 宗岡、大田 哲哉、 片山 義弘、川本 一之、櫛本 功、山野 正登 ・平成22年4月1日 山根 八洲男氏 理事に就任 ・平成22年4月1日 山野 正登氏 住所変更(平成22. 3. 19変更)